

東日本大震災に係る広島大学の対応

※ 更新部分は下線表示

I 支援中又は支援済みの事項

1. 医療活動支援関係

(1) DMAT（災害派遣医療チーム）

平成 23 年 3 月 11 日（金）～15 日（火） 医師 2 名，看護師 2 名，薬剤師 1 名を派遣

(2) 緊急被ばく医療対策関係

※ 広島大学は，文部科学省から西日本ブロック地域の三次被ばく医療機関として選定されている。

平成 23 年 3 月 12 日（土）に緊急被ばく対策委員会（委員長：神谷緊急被ばく医療推進センター長）を設置し，同日から「緊急被ばく医療チーム」の派遣を開始

- 平成 23 年 3 月 12 日（土）～平成 23 年 4 月 28 日（木） … 12 班を派遣
 - ・ 班構成 …… 6～8 人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）
 - ・ 派遣期間 … 5～6 日

☆平成 23 年 4 月 18 日（月）に福島大学職員 OB（1 人）を支援要員として採用

- 平成 23 年 4 月 28 日（木）～平成 23 年 5 月 20 日（金） … 6 班を派遣
 - ・ 班構成 …… 2～4 人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）
 - ・ 派遣期間 … 5～6 日

- 平成 23 年 5 月 20 日（金）～派遣を継続中
 - ・ 班構成 …… 3～11 人（医師，診療放射線技師等，看護師，事務職員）
 - ・ 派遣期間 … 4～8 日（一時帰宅に伴うスクリーニング及び救急医療室対応を含む。）

※ 平成 23 年 3 月 12 日（土）～平成 27 年 3 月 31 日（火）までの延べ派遣人数

医 師	…	594 人
放射線技師等	…	290 人
看 護 師	…	205 人
事 務 職 員	…	258 人
合 計		1,347 人

※ 「救急医療室」の設置

- 平成 23 年 7 月 1 日（金）から，福島第一原発へ「救急医療室」を設置し，救急医を常駐（48 時間交替）させることとなった。
- 広島大学緊急被ばく医療推進センターは事務局として，放射線医学総合研究所と連携，全国の国立大学などの協力を得て，医師や看護師，放射線管理の専門家の派遣計画の策定や医療備品の整備などを担う。
- 本学からは，救急医 4 人が対応
- 平成 23 年 11 月からは，看護師も順次派遣

(3) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動内容
（上記の医療チームの活動内容を含む。）

- ① 福島県オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）や初期スクリーニング拠点において患者のヘリ搬送，診断，除染を実施
- ② 患者搬送ルートの概要決定（放射線医学総合研究所と協議）
- ③ 汚染をスクリーニングする体制整備，スクリーニング法の指導並びに多数の市民及び小児甲状腺のスクリーニング実施 ⇒ 住民の不安軽減や「安心・安全」を提供
- ④ 福島県立医科大学の医師，看護師等に対する緊急被ばく医療セミナー実施
⇒ 医療従事者が安心して被ばく患者を受け入れられる環境を整備
- ⑤ 現地にワゴン車 2 台投入による緊急被ばく医療活動の機動力確保
- ⑥ 緊急被ばく医療活動を支援する備品や食品，水等を寄附（車 1 台分）
- ⑦ 広島大学を代表して，神谷緊急被ばく対策委員長が次のとおり委嘱を受けている。
 - ・ 平成 23 年 3 月～ 福島県立医科大学理事長付特命教授
 - ・ 平成 23 年 4 月～ 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー
 - ・ 平成 23 年 4 月～ 内閣官房政策調査員
 - ・ 平成 23 年 7 月 15 日～ 福島県立医科大学副学長
- ⑧ 放射線影響研究機関協議会に神谷緊急被ばく対策委員会委員長出席
- ⑨ 広島大学と福島県立医科大学との連携に関する協定（教育研究診療の進展，被ばく医療・放射線影響に係る研究拠点の形成等）締結（浅原広島大学長出席）
- ⑩ 活動拠点を福島県オフサイトセンター及びジェイビレッジから福島県立医科大学に移転（緊急被ばく医療チーム編成を縮小；平成 23 年 4 月 28 日）
- ⑪ 福島第一原発から 20 km 以内への住民の一時帰宅に伴う放射線測定要員に対する指導的役割を担う要員派遣
- ⑫ 広島大学と福島大学との連携に関する協定（教育や研究の発展，放射線に汚染された環境修復，放射線医療の研究や支援，放射線医学のリテラシー教育等の充実等）の締結（浅原広島大学長出席）（平成 23 年 7 月 28 日）
- ⑬ 広島大学，長崎大学，福島県立医科大学の学長会議を開催（今後の対応の方向性および三大学の連携体制強化について協議）（浅原広島大学長出席）（平成 24 年 5 月 14 日）
- ⑭ 広島大学，南相馬市との包括的連携協力に関する協定（市民生活の向上に向けた仕組みづくり，地域医療，産業振興，環境等に関する連携協力）締結（浅原広島大学長出席）（平成 25 年 8 月 30 日）
- ⑮ 復興庁「新しい東北」官民連携推進協議会会員として，神谷緊急被ばく対策委員会委員長が登録（平成 25 年 12 月 17 日）
- ⑯ 神谷緊急被ばく対策委員会委員長による「原子力災害における放射線の健康影響」等の講演（平成 28 年 3 月 31 日現在）
 - 福島県における講演（54 回，約 11,570 人）
（委員長代理（細井教授）実施分（2 回，約 1,100 人）を含む。）
 - 福島県以外での講演（74 回，約 15,760 人）
- ⑰ 本学学長らが福島県知事等を訪問
 - 越智学長，神谷副学長らが福島県庁を訪問，復興支援について内堀知事と会談（平成 28 年 12 月 15 日）
 - 越智学長，神谷副学長らが東京電力福島第一原子力発電所を訪れ，発電所内に診療所，廃炉作業状況等を視察（平成 28 年 12 月 15 日）

(4) 広島大学病院での被災者医療支援関係

① サーベイ検査

これまで、34人に対して実施（広島県警察機動隊の帰還隊員の検査についても、警察学校において別途実施）

② 内部被ばく特別健診

予約制によりホールボディカウンタを使用した内部被ばく特別健診を実施

- 平成23年8月1日から平成23年12月19日まで、毎週月曜日午後実施
- 平成24年11月20日から再開、毎週火曜日午後実施
- 平成26年1月から毎週月曜日午後実施
- 平成26年4月から毎週火曜日午後実施
- 平成27年4月から毎週月曜日午後実施

※ 平成29年3月31日（金）までの総受診者数 146人

(5) 他機関等の依頼による派遣等

① HICARE放射線量測定チーム（広島県）

- 平成23年3月16日（水）～22日（火）福島県においてスクリーニング検査（技術センター 技術専門職員 参加）

② 歯科医師の派遣（警察庁）

- 平成23年4月8日（金）～14日（木）歯科医師3人が宮城県内において遺体身元確認（検視）に従事（医歯薬学総合研究科：准教授，特任助教，病院：助教）

③ 京都大学原子炉実験所（広島市受託研究費）

- 平成23年3月28日（月）～30日（水）栃木県・福島県の各地において緩急放射線モニタリングを実施（工学研究院：准教授）

④ 核物理研究者チーム（大阪大学核物理研究センターが代表）

- 平成23年3月25日（金）～30日（水）福島県においてスクリーニング検査等（原爆放射線医科学研究所：教授，助教）
- 平成23年4月19日（火）～22日（金）福島県においてスクリーニング検査等（工学研究院：特任教授）

⑤ 東北関東大震災復興支援特別委員会（公益社団法人日本心理学会）

- 当該委員会の委員への就任（任期 H23.4.09～H24.3.31：教育学研究科：准教授2人）

⑥ 宮城派遣一次隊ボランティア派遣（社団法人日本理学療法士協会）

- 平成23年4月16日（土）～23日（土）生活機能対応専門職チームとして生活不活発病に対するアプローチなど（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）

⑦ 広島医療チーム（広島県）

- 平成23年4月24日（日）～30日（土）福島県須賀川市の避難所等において診療活動を実施（医歯薬学総合研究科：特任助教，病院：講師，助教，看護師2人，事務）

⑧ 薬剤師派遣（日本病院薬剤師会）

- 平成23年4月4日（月）～11日（月）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
- 平成23年4月24日（日）～平成23年5月1日（日）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）

- 平成 23 年 5 月 1 日（日）～7 日（土）岩手県立大船渡病院及び避難所において調剤業務（病院：薬剤師）
- ⑨ 医療スタッフのボランティア派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）
 - 宮城県石巻市（病院及び避難所）へ看護ケア担当者（教員，院生，研究補助者）を順次派遣。（平成 23 年 6 月 3 日（金）～平成 23 年 9 月末日）
 - ・ 平成 23 年 6 月 3 日（金）～5 日（日）（保健学研究科：教授，ボランティア特別休暇）
- ⑩ 福島第一原発の事故が健康に与える影響（英語版）資料提供（国立大学協会）
 - 留学生・外国人研究者向け講演資料を国大協に提供。（特に，関東地域大学の留学生への説明に使用。）（原爆放射線医科学研究所：稲葉教授（緊急被ばく医療対策委員会委員）作成）
- ⑪ 震災・津波復興のための海外調査員派遣（水産庁）
 - 平成 23 年 5 月 29 日（日）～平成 23 年 6 月 2 日（木）タイ王国において，震災・津波復興のための調査を実施（生物圏科学研究科：教授）
- ⑫ 津波被災マップ作成チーム（日本地理学会）
 - チームの一員として，「東北地方太平洋沖地震に伴う津波被災マップ」を作成した。平成 23 年 3 月 29 日（火）以降，順次同学会等 HP（日本語，英語，電子国土 Web システム及び e コミマップの各ページ）で公開（文学研究科：准教授 [学生も協力]）
- ⑬ 放射線に関する講演講師派遣（宮城県登米市）
 - 平成 23 年 8 月 19 日（金）登米市において認定農業者を対象に「放射線の基礎と宮城の汚染」についての講演を実施（工学研究院：准教授）
- ⑭ 産科医派遣（日本産科婦人科学会）
 - 平成 23 年 9 月 17 日（土）～23 日（金）岩手県石巻地区の産科拠点病院へ医師 2 名を派遣
- ⑮ 看護師派遣（広島市被災者支援ボランティア本部）
 - 福島県相馬市内の仮設住宅集会所等へ看護師を派遣
 - ・ 平成 23 年 8 月 26 日（金），27 日（土）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
 - ・ 平成 23 年 9 月 17 日（土），18 日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）
 - ・ 平成 23 年 11 月 5 日（土），6 日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）
 - ・ 平成 23 年 12 月 17 日（土），18 日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）
 - ・ 平成 24 年 1 月 14 日（土），15 日（日）バイタルチェック（保健学研究科：教授）
- ⑯ 放射能土壌汚染に関する講演講師派遣（放射能土壌汚染セミナー）
 - 平成 23 年 8 月 21 日（日）大阪大学中之島センターで開催のセミナーにおいて「広島原爆やチェルノブイリを踏まえた福島の放射能土壌汚染修復の道筋」についての講演を実施（原爆放射線医科学研究所：教授）
- ⑰ 母乳の放射線測定（市民団体「繋がろう広島」）
 - 平成 23 年 9 月 30 日（金）広島県へ自主避難している方の検体（東京都，神奈川県からの 4 人の母乳）と比較のための検体（広島市，福山市在住の 2 人の母乳）を受領，検出器により測定を実施（工学研究院：教授）
- ⑱ 医療スタッフ派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）
 - 福島県南相馬市（市立総合病院）へ理学療法士・作業療法士等を派遣
 - ・ 平成 23 年 9 月 18 日（日），19 日（月）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
 - ・ 平成 23 年 10 月 4 日（火）～7 日（金）理学療法業務（保健学研究科：助教）

- ・ 平成 23 年 12 月 25 日（日）～27 日（火）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
- 平成 24 年 1 月 7 日（土），8 日（日）宮城県気仙沼市の本吉病院 現地打合せ
（保健学研究科：教授）
- ・ 平成 24 年 3 月 26 日（月）～30 日（金）理学療法業務（保健学研究科：助教）
- ・ 平成 24 年 3 月 29 日（木）～31 日（土）現地での打合せ（保健学研究科：教授）
- ⑱ 整形外科医派遣（全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会）
 - 平成 23 年 10 月 30 日（日）～11 月 12 日（土）岩手県陸前高田市（県立高田病院）
へ整形外科医を出向派遣（病院：クリニカル・スタッフ（大学院生））
- ⑲ 神経内科医派遣（全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会）
 - 平成 24 年 3 月 18 日（日）～31 日（土）福島県いわき市（いわき市立総合磐城共立
病院）へ神経内科医を出向派遣（病院：医科診療医）
- ⑳ 京都大学原子炉実験所等との共同チームによる飯舘村放射線状況調査
 - 平成 24 年 3 月 26 日（月）～28 日（水）福島県相馬郡飯舘村へ調査員（放射線汚染
状況調査，村民インタビュー及び汚染状況と被害の記録を行う。）を派遣（工学研究
院：准教授，平和科学研究センター：専任研究員，文書館：准教授）
- ㉑ 医療スタッフ派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）
 - 平成 24 年 4 月 15 日（日）～16 日（月）宮城県亘理郡山元町（山元町役場）で健康
チェック（医歯薬保健学研究院：教授）
- ㉒ 研修医派遣（南相馬市立総合病院）
 - 平成 25 年 3 月 2 日（土）～17 日（日）福島県南相馬市で高齢者施設や仮設住宅の巡
回健診やホールボディカウンタを用いた内部被ばく検査等を実施（病院：研修医）
- ㉓ 整形外科医派遣（全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会）
 - 平成 25 年 3 月 10 日（日）～3 月 16 日（土）岩手県陸前高田市（県立高田病院）へ
整形外科医を出向派遣（病院：クリニカル・スタッフ（大学院生））
- ㉔ 本院医師の出向
 - 福島県立医科大学内に設置された「ふたば救急総合医療センター」への協力依頼に
対して本院医師を出向派遣（平成 28 年 10 月～）

2. 災害救援物資の支援関係

- ① 平成 23 年 3 月 19 日（土）災害救援物資（食料品，医薬品，携帯カイロ，ストーブ，
カセットコンロ，乾電池，生活雑貨など 11t トラック 2 台分）を発送（平成 23 年 3 月 22
日（火）東北大学及び福島大学へ到着）
- ② 平成 23 年 4 月 14 日（木）東北大学歯学部から依頼のあった救援物資（義歯洗浄剤 300
個，義歯ケース 300 個）を発送
- ③ 平成 23 年 4 月 26 日（火）岩手県大槌町の教育委員会から支援要請を受け，救援物資
（箸，ちりとり各 30）を発送
- ④ 平成 23 年 5 月 31 日（火）岩手大学から依頼のあった情報機器（ノートパソコン 17
台，プリンタ 6 台，スキャナ 2 台，ネットワーク機器 5 台）を発送
- ⑤ 平成 23 年 6 月 15 日（水）宮城県石巻北高等学校からの支援要請を受け，救援物資（電
気スタンド 6 台，鉛筆削り 1 台）を発送
- ⑥ 平成 23 年 8 月 19 日（金）宮城県石巻市立相川保育園からの支援要請を受け，救援物
資（パソコン用ソフトウェア 2 個）を発送
- ⑦ 平成 24 年 10 月 3 日（水）「大学 ICT 推進協議会 再生 PC 寄贈プロジェクト」による

被災地への寄贈 PC について、本学から 86 台の PC を寄贈

3. 被災者受入対応関係

- ① 法務研究科において東北学院大学の法科大学院生（3 年）1 人を受入
受入期間 … 平成 23 年 4 月 5 日～平成 23 年 5 月 6 日
宿泊施設 … 病院レジデントハウスを提供（無償）
- ② 国際協力研究科において東北大学大学院の学振特別研究員（本学（国際協力研究科）で学位取得）1 人を受入
受入期間 … 平成 23 年 3 月 21 日～平成 23 年 4 月 22 日
宿泊施設 … 山中会館を提供（無償）
- ③ 生物生産学部において北里大学海洋生命科学部の学生（4 年）1 人を受入
受入期間 … 平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 1 月 27 日
宿泊施設 … 池の上学生宿舎を提供（無償）

4. 放射線量等測定支援関係

- ① 広島大学東広島キャンパス内における大気中の放射性物質の測定
 - 工学研究院（教授）が、平成 23 年 3 月 20 日（日）から測定を実施・公表
 - 平成 23 年 4 月 27 日以降（5 月 8 日まで）放射性物質が検出されていないため平成 23 年 5 月 9 日から週 1 回の測定
- ② 文部科学省の依頼により、ポケット線量計を屋外に設置、平成 23 年 4 月 12 日（火）から積算線量を毎日 14 時に測定・報告。平成 23 年 8 月 10 日以降は、週 1 回の測定・報告。（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）
- ③ 文部科学省からの通知により、平成 23 年 12 月 27 日を最終測定日とし、測定を終了。なお、平成 23 年 12 月 28 日（水）文部科学省から最終の測定結果及び今回の公表をもって大学、高等専門学校による測定を終了したことについて公表
- ④ 文部科学省からの依頼により、平成 23 年 9 月から緊急時避難準備区域内における放射性物質の環境モニタリングを実施。本学所有の分析機器を用いて、当区域内の水（井戸水等）に含まれる放射性核種の測定・報告。（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）
- ⑤ 文部科学省からの依頼により、平成 24 年 5 月から避難指示解除準備区域等における放射性物質の環境モニタリングを実施。本学所有の分析機器を用いて、当区域等の水（井戸水及び河川等）に含まれる放射性核種の測定・報告。（同上）
- ⑥ 国立大学協会「平成 25 年度震災復興・日本再生支援事業」に採択された「福島県南相馬市の環境放射能調査」事業を実施。南相馬市において環境サンプル（野菜、果実、土壌、水）を収集し、放射能計測を実施。（平成 25 年 4 月～12 月）
- ⑦ 平成 25 年 8 月から 12 月までの間、継続事業として南相馬市を流れる 3 河川で汚染調査を実施。
- ⑧ 平成 25 年 4 月から 12 月までの間、継続事業として南相馬市の畑の除染試験を実施。
- ⑨ 平成 23 年 3 月 20 日から同 29 年 4 月 2 日までの間、福島県各地域において、工学研究科（教授）による断続的な福島原発事故放射能汚染調査を実施。

5. 義援金募金活動

- ① 「いろは」（職員向け情報ポータルサイト）、「もみじ」（学生向け情報ポータルサ

イト) 及びHPに協力要請記事を掲示, 各室・部局等に対して協力を要請(平成23年3月15日)

- ② 平成23年3月中に寄せられた義援金
15,092,249円 (平成23年4月8日 日本赤十字社広島県支部へ振込)
- ③ 平成23年4月中に寄せられた義援金
4,048,112円 (平成23年5月16日 日本赤十字社広島県支部へ振込)
- ④ 平成23年5月30日(月)午後
義援金(合計 19,140,361円)の「目録」を日本赤十字社広島県支部へ贈呈。なお,
義援金活動は平成23年8月31日まで行うこととした
- ⑤ 平成23年5月1日～平成23年8月31日までに寄せられた義援金
682,387円 (平成23年9月16日 日本赤十字社広島県支部へ振込)
義援金 総額 19,822,748円

6. 教職員・学生の安否確認及び支援等

(1) 安否確認

- 教職員及び対象学生553人全員の無事を確認 (平成23年3月23日)

(2) 家屋等の被災状況確認

- 在学生20人, 新入生5人, 教職員4人 (平成23年4月1日現在)
(在学生のうち1人(3月卒業)は, 新入生(大学院生)にも重複カウント)
- 主たる家計支持者の自宅が全半壊した者 (平成23年5月20日調べ)
学部生5人(うち新入生2人), 大学院生2人
- 主たる家計支持者が失業又は就業見込みが立たない者 (平成23年5月20日調べ)
大学院生1人

(3) 被災学生への支援

- 入学科及び授業料の免除申請があった学生を全額免除
平成23年度
 - ・ 入学科全額免除 1名 (平成23年5月31日決定)
 - ・ 前期授業料全額免除 13名 (平成23年7月6日決定)
 - ・ 後期授業料全額免除 12名 (平成23年12月16日決定)
- 平成24年度
 - ・ 入学科全額免除 4名 (平成24年5月30日決定)
 - ・ 前期授業料全額免除 11名 (平成24年7月5日決定)
 - ・ 後期授業料全額免除 6名 (平成24年12月21日決定)
- 平成25年度
 - ・ 入学科全額免除 1名 (平成25年6月14日決定)
 - ・ 前期授業料全額免除 5名 (平成25年7月24日決定)
 - ・ 後期授業料全額免除 5名 (平成25年12月26日決定)
- 平成26年度
 - ・ 入学科全額免除 0名 (平成26年6月17日決定)
 - ・ 前期授業料全額免除 2名 (平成26年7月24日決定)
 - ・ 後期授業料全額免除 2名 (平成26年12月25日決定)

平成 27 年度

- ・ 入学料全額免除 0 名 (平成 27 年 6 月 17 日決定)
- ・ 前期授業料全額免除 1 名 (平成 27 年 7 月 23 日決定)
- ・ 後期授業料全額免除 1 名 (平成 27 年 12 月 25 日決定)

7. ボランティア派遣

○ 学生ボランティアの派遣

(1) 「OPERATION つながり」の活動

- ① 広島大学震災復興支援ボランティア「OPERATION つながり」の「つながり隊」1 次隊として学生 23 名を派遣，災害復興支援団体「L & D 仙台」（大学生中心のボランティア団体）と連携し，仙台市内において被災者支援活動（子供への学習支援，清掃等）を実施。交通費（バス借上）や活動経費等（宿泊費の一部補助を含む。）約 138 万円を「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：平成 23 年 9 月 14 日～20 日）
- ② 2 次隊として学生 26 名（うち留学生 5 名）を派遣，仙台市，魚沼市，亶理郡亶理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い，交流会の開催，学習支援を行うと共に，復旧作業，泥かき，雑草除去等を実施。交通費等約 105 万円を「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：平成 23 年 12 月 1 日～8 日）
- ③ 3 次隊として学生 14 名を仙台市等へ派遣，東北大学川内北キャンパスにおいて学生シンポジウム（今，ぼくたちにできること～広島大学の学生と震災復興を考えよう～）を開催すると共に，仙台市，岩沼市，名取市，亶理郡亶理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い，学習支援，交流会の開催などを実施。交通費等約 64 万円を「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：平成 24 年 2 月 14 日～24 日）
- ④ 4 次隊として学生 17 名を仙台市等へ派遣，宮城県仙台市若林区，岩沼市及び名取市の仮設住宅において傾聴やお手伝い，交流会の開催，学習支援などを実施。交通費等約 90 万円を，「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：平成 24 年 3 月 9 日～19 日）
- ⑤ 5 次隊として学生 20 名を仙台市等へ派遣，宮城県仙台市若林区，岩沼市，亶理郡亶理町，亶理郡山元町において仮設住宅での交流会開催，いちご農園の復興支援，学生との座談会などを実施。交通費約 90 万円を「広島大学校友会」から支弁。（派遣期間：平成 24 年 8 月 20 日～31 日）
- ⑥ 6 次隊として学生 24 名を仙台市等へ派遣。宮城県仙台市若林区，石巻市，亶理郡亶理町，亶理郡山元町において仮設住宅での交流会，いちご農園の復興支援，在宅避難者支援，スタディーツアー参加及び山元町立山下中学校において開催される「慰霊祭(3.11)」に参加するなどのボランティア活動を実施。交通費等約 89 万円を「広島大学校友会」から支弁。（派遣期間：平成 25 年 3 月 3 日～14 日）
- ⑦ 7 次隊として学生 19 名を仙台市等へ派遣。仙台市，石巻市，亶理郡亶理町，亶理郡山元町の仮設住宅等において，手伝いや交流会開催など人々の心に寄り添う活動を実施。交通費等約 90 万円を「広島大学校友会」から支弁。（派遣期間：平成 25 年 9 月 2 日～13 日）
- ⑧ 8 次隊として学生 20 名を仙台市等へ派遣。仙台市，石巻市，名取市等において仮設住宅での交流会や世帯訪問を通じての人々の心に寄り添う活動，行方不明者捜索の支援活動及び漁業支援活動を実施。交通費等約 90 万円を「広島大学校友会」から支弁予定。（派遣期間：平成 26 年 3 月 9 日～20 日）

- ⑨ 9次隊として学生13名を仙台市等へ派遣。仙台市若林区のニッペリア仮設住宅において、集会所でのクリスマス会の開催や、世帯訪問による掃除の手伝い、傾聴ボランティアを通じて人々の心に寄り添う活動を行った。また、支援活動に取り組んでいる現地の学生との交流を実施した。(派遣期間：平成26年12月23日～27日)
- ⑩ 10次隊として学生8名を仙台市へ派遣。仙台市若林区のニッペリア仮設住宅において、世帯訪問による掃除の手伝いや交流会開催など人々の心に寄り添う活動を実施。(派遣期間：平成27年7月18日～20日，8月16日～20日)
- ⑪ 11次隊として学生16名を仙台市等へ派遣。仙台市若林区のニッペリア仮設住宅において、世帯訪問による掃除の手伝いや交流会開催など人々の心に寄り添う活動を実施。また、小グループに分かれ、気仙沼市，南三陸町，松島町にて現状把握を実施。(派遣期間：平成27年12月25日～29日)
- ⑫ 12次隊として学生9名を仙台市へ派遣。仙台市若林区のニッペリア仮設住宅において、住民の退去のため掃除の手伝い等を実施。また、今後も住民との関係を継続していくきっかけ作りのための交流会を開催。(派遣期間：平成28年2月26日～27日)
- ⑬ 13次隊として学生10名を仙台市へ派遣。仙台市若林区のニッペリア仮設住宅において、交流会や世帯訪問活動等を実施。また、災害公営住宅での聞き取り調査も実施し、今後のボランティア活動に対するニーズについて把握。(派遣期間：平成28年7月16日～18日)

(2) 法学部民法ゼミ学生の活動

- ① 学部生及び大学院生14名が、夏休みを利用し岩手県宮古市でボランティア活動を実施。「かわいキャンプ」に宿泊し、3日間仮設住宅の集会所でサロン活動(お茶を飲みながら話をする)を通じて悩みを聴き、法律問題を整理し説明する活動を実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成23年9月11日～16日)
- ② 学部生及び大学院生14名が、岩手県宮古市でボランティア活動を実施。「かわいキャンプ」に宿泊し、2日間のサロン活動と1日間の畑や海岸のガラス片等の除去作業を実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成24年9月10日～15日)
- ③ 学部生及び大学院生21名が、岩手県宮古市のホテルに宿泊し、2日間のサロン活動と1日間の仮設住宅のベンチ補修作業を実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成25年9月2日～7日)
- ④ 学部生及び大学院生10名が、岩手県宮古市のホテルに宿泊し、2日間のサロン活動と1日間の宮古まつりの準備作業及び受付を実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成26年9月9日～14日)
- ⑤ 学部生，大学院生及び研究員12名が、岩手県宮古市のホテルに宿泊し、3日間で6仮設住宅においてサロン活動を実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成27年9月8日～13日)
- ⑥ 学部生及び大学院生9名が、岩手県宮古市のホテルに宿泊し、台風10号により浸水した工場(文化印刷(株))の泥出し・ゴミ詰め作業，被災市役所等(宮古市，山田町，大槌町，釜石市)及び復興災害住宅の訪問調査を各1日間ずつ実施。交通費等の一部を法学部の寄付金から支弁。(派遣期間：平成28年9月4日～9日)
- ⑦ 学部生及び大学院生等4名が、岩手県宮古市等のホテルに宿泊し、1日午前・午後宮古市社会福祉協議会主催の交流行事に参加し、2日間宮古市，山田町，大槌町，釜石市，陸前高田市，南三陸町，仙台市役所等を訪問し、東日本大震災の復興計画・復興状況の

総括調査を行う予定。(派遣期間：平成29年8月27日～31日)

- ⑧ 学部生及び大学院生等4名が、岩手県宮古市等のホテルに宿泊し、2日目宮古市社会福祉協議会主催の交流行事(フィールドワーク・ワークショップ)に参加した後、宮古市役所を訪問。3日目山田町、大槌町、釜石市、4日目陸前高田市、気仙沼市の市役所及び大川小学校等を訪問し、東日本大震災の復興計画・復興状況の情報を収集した。5日目宮城県庁及び吉岡法律事務所を訪問し、復興計画・復興状況の総括調査を行った。(派遣期間：平成29年8月27日～31日)

8. 広島大学福島原発事故関連放射能環境調査チーム(学術室)の活動

- ① 工学研究院 教授を、平成23年9月28日(水)、29日(木)福島県南相馬市へ派遣、サンプリングと講習及び講演会(市議会講堂)を実施。
- ② 工学研究院 教授、准教授、生物圏科学研究科 准教授を、平成23年10月19日(水)、20日(木)福島県南相馬市へ派遣、大気ダスト及び土壌のサンプリングと講習を実施。
- ③ 工学研究院 教授、准教授、工学研究科 大学院生の3人を、平成23年11月30日(水)、平成23年12月1日(木)福島県南相馬市へ派遣、サンプリングと講演会を実施。
- ④ 国立大学協会「平成24年度震災復興・日本再生支援事業」に採択された「福島県南相馬市の環境放射能調査」事業を実施。南相馬市における現場測定に加え、環境サンプルを収集し、放射線計測(空気中に浮遊する塵、河川等の水質、田畑の土壌、飲料水等)を実施。
- ⑤ 「福島県南相馬市の環境放射能調査」の結果を南相馬市に報告すると共に、情報開示による市民の不安解消のため住民向けの説明会を開催(平成24年5月2日(水))。
- ⑥ 平成23年9月から平成24年12月までの間、福島第一原発周辺の福島県南相馬市を流れる4河川で実施した汚染調査結果を基に、住民向け説明会を開催(平成25年3月28日(木))。

9. 広島大学大学院リーディングプログラム(放射線災害復興プログラム)経費による派遣

- ① 工学研究院 教授、准教授を、平成24年2月29日(水)～平成24年3月2日(金)南相馬市へ派遣。環境放射能測定、大気ダストサンプリング、地下水、河川水及び土壌のサンプリングを実施。
- ② 医歯薬学総合研究科 教授を、平成24年3月23日(金)～26日(月)宮古市・釜石市・陸前高田市へ派遣。各市役所で災害に伴う医療復興の現状調査と確認、リーディングプログラム事業の情報収集を実施。
- ③ 総合科学研究科 教授、准教授等を、平成24年4月1日(月)～5日(木)福島市・相馬市へ派遣。福島市から相馬市にかけての山林域での放射線量の概況調査を実施。
- ④ 工学研究院 教授等を、平成24年5月1日(火)～4日(金)南相馬市へ派遣。南相馬市において環境放射能モニタリングに関するサンプル採取と実地調査を実施。
- ⑤ 原爆放射線医科学研究所 教授を、平成24年6月21日(木)～23日(土)南相馬市へ派遣。南相馬市立総合病院でリーディングプログラム事業のフィールドワーク等について意見交換を実施。
- ⑥ 総合科学研究科 教授等を、平成24年7月30日(月)～平成24年8月2日(木)相馬市・南相馬市へ派遣。相馬市の宇田川流域・南相馬市の真野川流域で大学院生の研究フィールド決定のための事前踏査を実施。
- ⑦ フェニックスリーダー育成プログラム運営会議メンバー及びフィールドワーク実行委員会が、平成24年8月8日(水)～10日(金)南相馬市(市役所、市立総合病院、福島大学)で福島大学南相馬地域支援サテライトを活用したフィールドワーク科目の準備を実施。

II 支援に向けて準備済みの事項

1. 医療活動支援関係

(1) 広島大学病院での被災者医療支援関係

- ① 除染設備の仮設配管及び貯留設備の整備（平成 23 年 3 月 17 日完了）
- ② 広島県内 6 病院の連携による被ばく患者の受入れ体制の構築
（広島大学は、重症 4 床、中症 4 床を確保し、未除染患者も受入れ可能）

2. 被災者受入対応関係

(1) 被災者用宿舎の提供準備

- ① 文部科学省からの依頼により看護師宿舎（8 室）及びレジデントハウス（19 室）を提示

(2) 被災地の国立大学在学中の外国人留学生の一時待避受入れ準備

- ① 国立大学法人理学部長会議構成大学（32 大学）において対応が検討され、理学研究科で受入れ支援を行うこととした。
- ② 受入人数：10 名（山中会館に 2 人分確保。他は民間等を予定）
- ③ 受入期間：平成 23 年 3 月 22 日（火）～31 日（木）

(3) 東北・関東地区の大学に在学中の学生及び入学予定者に対する本学図書館の利用便宜 （平成 23 年 3 月 18 日 HP へ掲載）

(4) 被災地の学生・研究者受入体制

- ① 理学研究科附属臨海実験所において被害を受けた各大学の臨海実験所等関係者に対する宿泊施設（無償）、実験室（実習のある 8、9 月を除く。）を提供する旨をマリンバイオ共同推進機構（JAMBIO）の HP へ掲載（平成 23 年 4 月 8 日）
- ② 文部科学省（学術機関課）から照会に対して放射光科学研究センターにおいて共同利用・共同研究の受入可能を回答
- ③ すべての学部・研究科において被災地域の学生に対する講義の履修、聴講等及び宿泊施設を無償で受入・提供する旨を HP へ掲載（平成 23 年 4 月 12 日）
- ④ 被災地域の大学のみならず、計画停電等による影響が懸念される関東以北の大学等の研究者に対して研究スペース・研究装置等の利用等可能な支援を行う旨を HP へ掲載（平成 23 年 4 月 12 日）

(5) 情報機器利用提供

被災地域の大学の学生（入学予定者を含む。）・教職員に対する広島大学教育用情報端末及びネットワークの利用便宜（平成 23 年 3 月 30 日 HP へ掲載）

(6) 教育・心理相談提供

教育学研究科では、被災した幼児・児童・生徒と保護者・教師を対象とした教育・心理相談を実施（平成 23 年 7 月 26 日 HP へ掲載）

文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」へ登録（平成 23 年 9 月 12 日）

(7) イベントへの招待

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」プログラムの【「たたら」の中に生まれる「鉄」、そして「宇宙」の中に生まれた「地球」（平成 23

年 9 月 10 日開催：生物圏科学研究科】へ、被災地から広島県に避難している小学校 5・6 年生，中学生，高校生 20 人を招待予定（平成 23 年 8 月 17 日 広島県へチラシ等配付を依頼）（申込者なし）

3. 技術者等の派遣関係

(1) 応急危険度判定士の派遣準備

文部科学省からの依頼により，被災文教施設応急危険度判定士の資格を有する職員 3 人の派遣を準備。

(2) 技術職員の派遣依頼

全国施設担当部課長会（会長：東京大学長）からの依頼により，被災大学等への技術職員の派遣を準備。

4. 放射線量等測定支援関係

(1) 放射能機能測定可能施設の情報提供

- ① 文部科学省へ「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」（H14. 5. 9 厚労省）に示す NaI（TI）シンチレーションサーベイメータの本学の保有状況（8 台）を情報提供
- ② 「緊急時における食品の放射能マニュアル」に示す 6 種類の分析のうち 3 種類の分析が実施可能である旨を回答（自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門）

(2) 空間放射線量率調査の実施地点拡大に伴う協力

- ① 文部科学省からの「都道府県別環境放射能水準調査」の放射線量率調査実施地点の拡大に伴う協力依頼に関し，自然科学研究支援開発センターアイソトープ総合部門において実施可能である旨を回答

5. 被災学生に対する支援関係

平成 23 年 3 月 14 日（月）に経済的な相談に応じる窓口及び学生ボランティア登録窓口を開設するとともに，池の上学生宿舎（男女各 5 室，計 10 室）を確保

※ 「もみじ」（学生向け情報ポータルサイト）及び HP に掲載

III 支援体制・広報等

1. 危機管理・災害対策本部

平成 23 年 3 月 14 日（月）9:00 設置（学長（本部長），理事，副学長 ほか）

2. ホームページによる情報発信

- (1) 平成 23 年 3 月 15 日（火）本学ホームページのトップページに「東北地方太平洋沖地震に関する緊急のお知らせ」（現在：東日本大震災に関するお知らせ）をアップし，学生，留学生，新入生，保護者等への情報，放射線に関する基礎的な情報等，本学が支援に向けて準備済みの事項等の情報を発信（※英語及び一部中国語にも対応）。

- (2) 平成 23 年 4 月 19 日（火）から，広島大学のウェブサイトとは独立した震災支援用の無償クラウドサービス（ポータルサイト）を利用して，PC や携帯電話から直接アクセスが

できる「放射能対策基本情報ポータルサイト」を立ち上げ、英語及び中国語にも対応した情報を発信している。

3. その他

- (1) 留学生や外国人研究者及びその家族に対する放射能汚染に関する正確な情報伝達のため、東広島地区及び広島地区において英語による講演会を実施
 - 第1回東広島キャンパス（サタケメモリアルホール）平成23年4月19日（火）18:00～19:30
 - 第2回霞キャンパス（医学部第1講義室）平成23年4月20日（水）18:00～19:30
 - 第3回東広島キャンパス（総合科学研究科L102講義室）平成23年4月22日（金）18:00～19:30※ 3日間で、延べ約80人の留学生や外国人研究者が参加

- (2) 震災後2年間の被ばく医療支援等を振り返ると共に、被災地フクシマに寄り添いながらの支援活動の取り組みを一冊にまとめた冊子「東日本大震災・福島原発災害と広島大学」～被災地への復興支援の思いを記録～（A4版、80ページ）を平成25年3月11日発刊。

- (3) 「文部科学省 東日本大震災復興支援イベント」に参加し、本学が取り組んできた復旧・復興支援活動の実績についての活動報告、冊子・パンフレット配付及びパネル展示を実施。（平成25年3月11日）

以 上